



路上で故障したときは.....	128
エンストで始動できなくなったときは.....	128
走行中、警告灯が点灯したときは.....	129
走行中、車体床下に強い衝撃を受けたときは.....	129
工具・スペアタイヤ.....	130
パンクしたときは.....	132
オーバーヒートしたときは.....	135
バッテリーがあがったときは.....	136
けん引してもらおうときは.....	137
キーを閉じ込んでしまったときは.....	138
事故がおきたときは.....	138

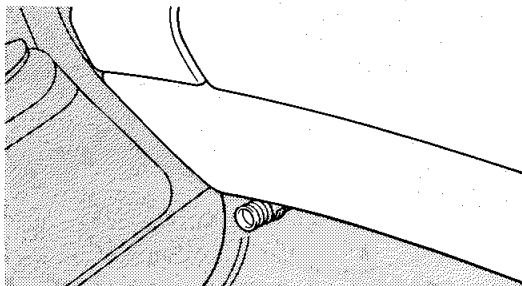
路上で故障したときは

■車を路肩に寄せ、非常点滅灯を点滅させます。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

■緊急を要するときは発炎筒で合図します。

●助手席足元に備えつけてあります。



- 発炎時間は約5分間ですので非常点滅灯を併用してください。
- 本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でお求めください。

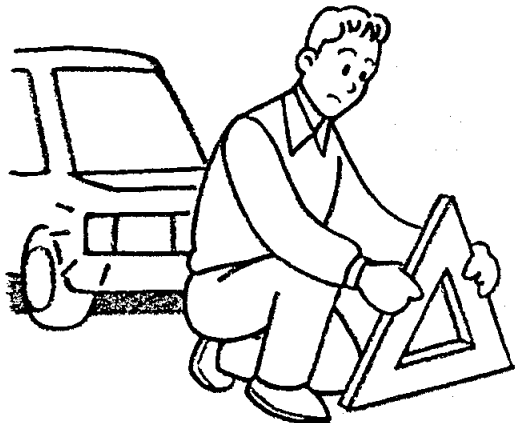


注意

- お子さまにはさわらせてないでください。
- ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。
- 使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。
- トンネル内などでは使用しないでください。煙で視界が悪くなり危険です。

■困ったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

「整備手帳」巻末のトヨタサービス網をご覧ください。



エンストで始動できなくなったときは

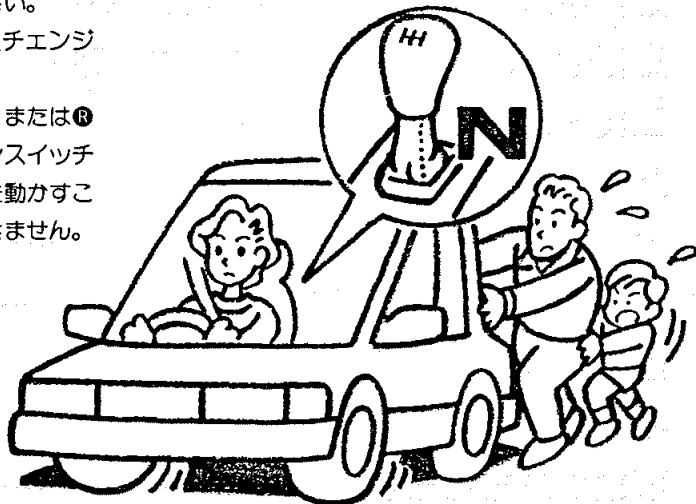
次の方法で安全な場所まで移動してください。

- 付近に人がいるときは押しもらう。(チェンジレバーはNで。)
- マニュアル車はギヤを①(②でもよい)または③にいて、クラッチを踏まずにエンジンスイッチをSTARTの位置で保持すれば、車を動かすことができます。オートマチック車はできません。








注意

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。



走行中、警告灯が点灯したときは

	<p>充電警告灯</p>	<p>このまま走るとバッテリーあがりやオーバーヒートを招くため、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>油圧警告灯</p>	<p>このまま走るとエンジンを破損するおそれがあるため、ただちに安全な場所へ停車しエンジンを止め、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>排気温警告灯</p>	<p>枯れ草などの燃えやすいものがない場所に停車し、エンジンを止めて冷やします。再始動して消灯すれば走行できます。再び点灯する場合はそのまま使用せず、トヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ブレーキ警告灯</p>	<p>このまま走るとブレーキが効かなくなるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。</p>
	<p>エンジン警告灯</p>	<p>エンジン電子制御システムに異常があるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
<p>ABS</p>	<p>ABS警告灯</p>	<p>システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

走行中、車体床下に強い衝撃を受けたときは

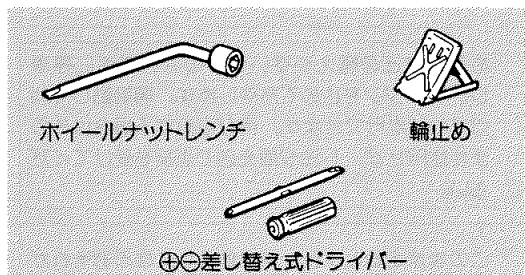
- ただちに車を止め、ブレーキ液の漏れや損傷を確認してください。
- 損傷がひどい場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

工具・スペアタイヤ

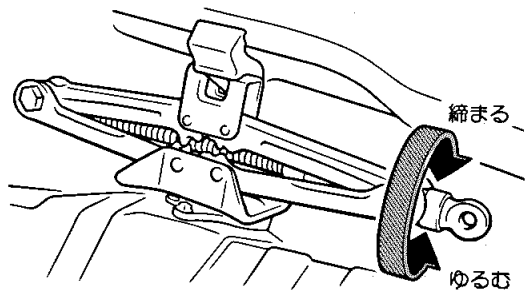
工具、ジャッキ、ジャッキハンドル、スペアタイヤは、トランクに格納されています。

工具とジャッキ

- ジャッキハンドルはフタの裏に取りつけられています。
- 工具袋の中には次の工具がはっています。



■ジャッキの取り出し方

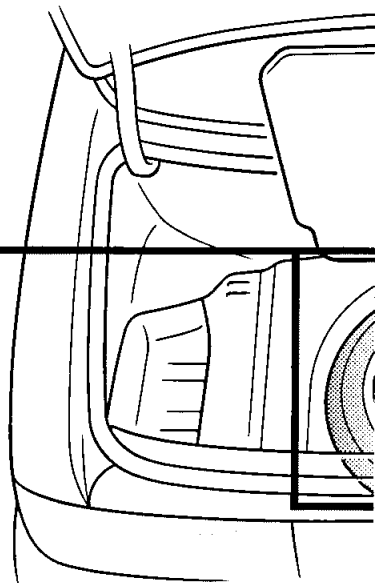
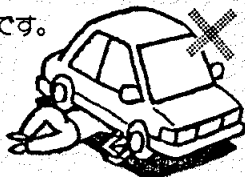


- ジャッキをゆるめてははずします。
- 格納するときはジャッキが固定するようにかみあわせて締めます。

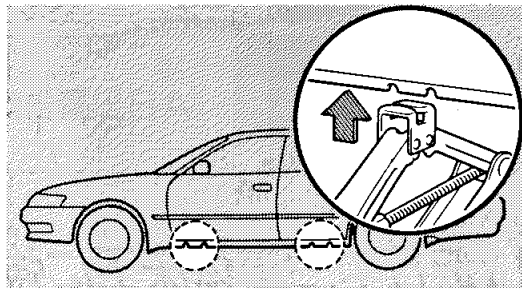
■ジャッキアップのしかた



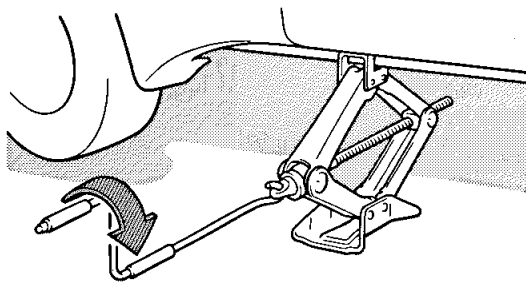
- 輪止めをしてください。(132 ページ参照)
- ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
- ジャッキアップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。

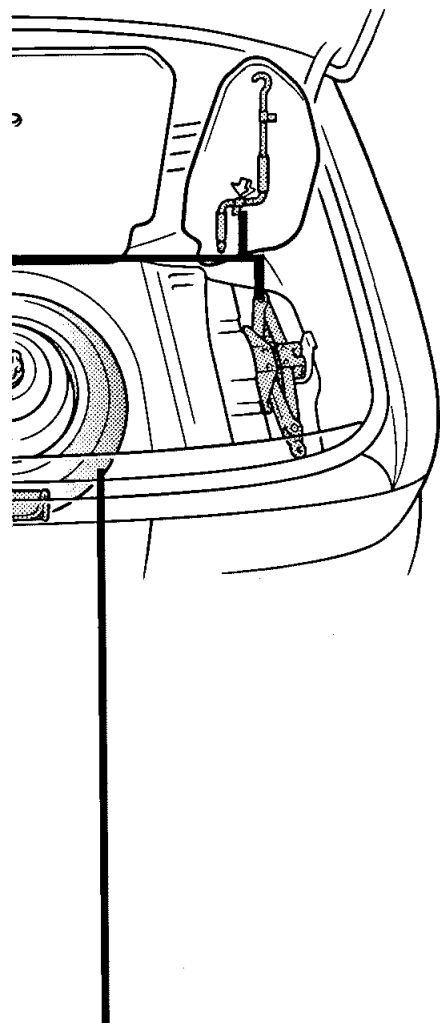


- 1 地面の平らな固くて安定したところにジャッキをおきます。
- 2 ジャッキを手でまわしてジャッキセット位置まで上げます。



- 3 ジャッキハンドルを使用してタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

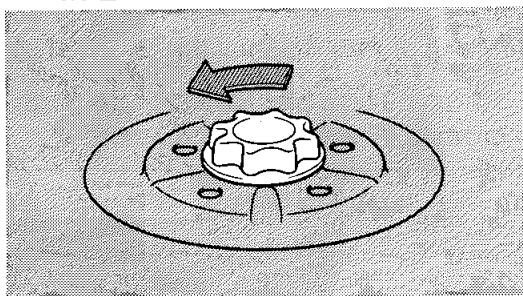




スペアタイヤ

■取り出し方

- 1 カバーを取りはずします。
- 2 ハンドルを左にまわして取りはずし、タイヤを取り出します。



■応急用タイヤについて★



注意

●**応急用タイヤはタイヤがパンクしたとき、一時的に使用するお客様のお車専用のタイヤです。**他のタイヤやホイールと組みあわせたり、お客様のお車以外の車に使用しないでください。→交換方法は次ページ参照



標準タイヤ

●**応急用タイヤ装着時は100 km/h以下で走行し、パンクしたタイヤはただちに修理して、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。**



応急用タイヤ

●**応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く、また直径がやや小さくできているため、車高が少し低くなります。突起物などをのりこえるときは標準タイヤ装着時と同じ感覚で運転しないように注意してください。**

●**応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、後輪に**応急用タイヤ**を使用しないでください。応急用タイヤを前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてから**タイヤチェーン**を装着してください。**

●**LSD装着車は後輪に**応急用タイヤ**を装着しないでください。後輪がパンクしたときは**応急用タイヤ**を前輪に使用し、はずした前輪を後輪に装着してください。**

●**空気圧はときどき点検してください。**
空気圧: 4.2 kg f/cm² (走行前のタイヤが冷えているとき)

●**空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。**

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

パンクしたときは

スペアタイヤへの交換

— タイヤ交換をするまえに —

① 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。

● パーキングブレーキをかけエンジンを止めます。

● 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

② ジャッキ、スペアタイヤ、以下の工具を取り出します。→ 前ページ参照

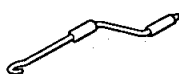
● 輪止め



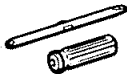
● ホイールナットレンチ



● ジャッキハンドル



● ⊕ ⊖ 差し替え式
ドライバー

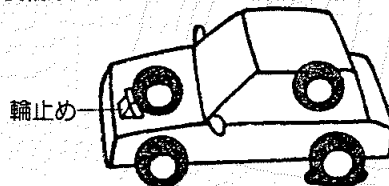


③ センターキャップ、ホイールキャップをはずします。→ 134、135 ページ参照

1

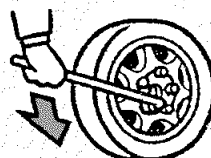
パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

- 前輪がパンクしたときは後輪のうしろ側
- 後輪がパンクしたときは前輪の前側



2

ホイールナットレンチでナットを左にまわし、手でまわるくらいまでゆるめます。



3

ジャッキをセットし、ジャッキアップします。

→ 130 ページ参照

4

ナットを手ではずします。

5

タイヤを取り替えます。

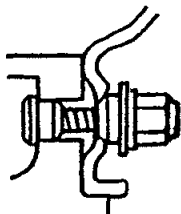
アルミホイールのかたは直接地面に置くとき、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

6 タイヤがたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

■アルミホイール装着車のかたは

— 応急用タイヤ付き車 —

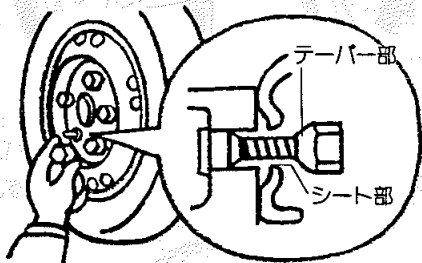
ホイールナットを下図のように仮締めします。



— 標準タイヤ付き車 —

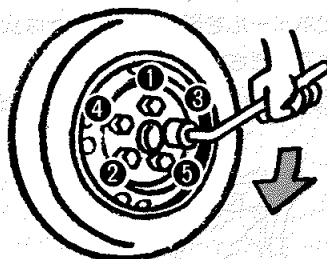
次ページの「標準タイヤにもどすときは」を参照してください。

■スチールホイール装着車のかたは
ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽くあたるぐらいに仮締めします。



7 ジャッキを下げます。

8 ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを2~3度にわたり手で十分締めつけます。



⚠ 注意

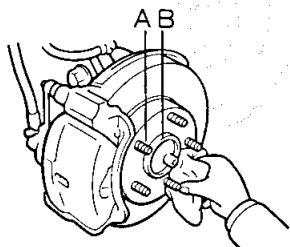
ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。

9 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

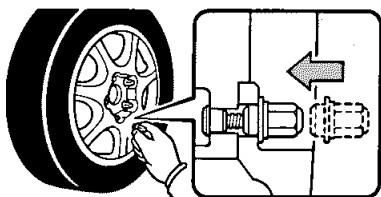
標準タイヤにもどすときは次ページを参照してください。

標準タイヤにもどすときは

- 傷、変形があるものは再使用しないでください。
 - 1,000 km 走行したあとに再度ナットを締めつけ、ゆるみがないことを確認してください。
 - 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
 - タイヤの空気圧を確認してください。運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。
 - タイヤを新品と交換するときは 112 ページを参照してください。
 - アルミホイールを取りつけるときは次の手順で行ってください。
- ① 図の A、B のよごれをふきとります。



- ② アルミホイールを B の部分に確実にはめます。
- ③ 座金がホイールにあたるまでナットを手で右にまわして仮締めします。さらにホイールナットレンチを使用して手で十分締めつけます。



注意

ナットはトヨタ純正アルミホイール専用品を使い、締めつけすぎないようにしてください。

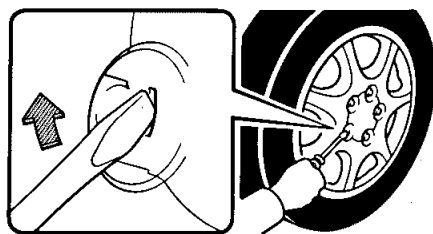
センターキャップの取りはずし方★



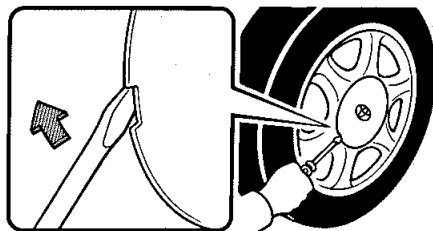
アドバイス

- 直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。
- ⊖ドライバー以外は使わないでください。

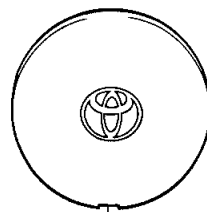
- 15 インチアルミホイール装着車
⊖ドライバーを切り欠きに差し込み、ホイールナットの頭部を支点にして、タイヤ側にこじります。



- 16 インチアルミホイール装着車
●⊖ドライバーを切り欠きに差し込み、タイヤ側にこじります。

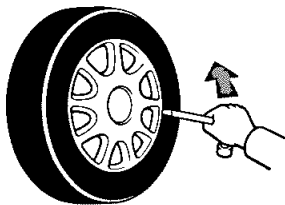


- キャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きの位置をあわせませす。



切り欠き

ホイールキャップの取りはずし方★



アドバイス

- 直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。
- ホイールナットレンチ以外は使わないでください。

- ホイールナットレンチの先を差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2~3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずれます。)
- ホイールキャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きをあわせてください。

オーバーヒートしたときは

△ 処 置

- 1 安全な場所に車を止めます。
- 2 エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しをよくします。

! 注 意

3000 車、2500 車はラジエーター冷却用のファンが作動していることを確認してください。万ー、ファンが作動していないときは、ただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。

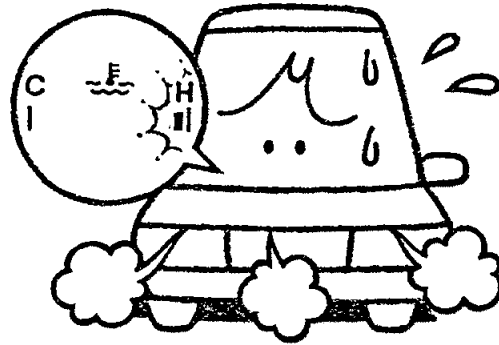
- 3 水温計の表示(または針)が下がり、エンジンが十分冷えたら、最寄りのガソリンスタンドかトヨタ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水漏れがないか日頃から点検を。
点検方法は「整備手帳」をご覧ください。

! 注 意

- エンジンが熱いときは、ラジエーターや補助タンクのキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出して思わぬやけどをすることがあります。キャップを開けるときは、エンジンが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆつくりと開けてください。
- 冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆつくりといれてください。エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。



こんな状態がオーバーヒートです。

- 水温計の表示が点滅したとき
(指針式メーターは針がレッドゾーンにはいったら赤信号)
- ボンネットから蒸気が立ちのぼりエンジンの出力が低下。

バッテリーがあがったときは

自 車



救 援 車

押し掛けによる始動はできません。救援車を依頼しブースターケーブルでエンジンを始動しましょう。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

① ブースターケーブルを次の順につなぎます。

- ① 自車のバッテリーの⊕端子
- ② 救援車のバッテリーの⊕端子
- ③ 救援車のバッテリーの⊖端子
- ④ 自車のエンジン本体（フックなど）

注意

④の接続は必ずバッテリーから離れたエンジン本体にしてください。バッテリーに直接つなぐと、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

② 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにします。

③ 自車のエンジンをかけます。

④ ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

⑤ 最寄りのガソリンスタンドやトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
- 火気を近づけないでください。

こんな状態がバッテリーあがりです。

- スターターがまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドランプがいつもより暗い。
- クラクションの音が小さい。または鳴らない。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを切ったままライトをつけたり、ラジオ、カセットを聞かない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、ときどきエンジンの回転を上げてやる。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して、寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充を。点検方法は「整備手帳」をご覧ください。

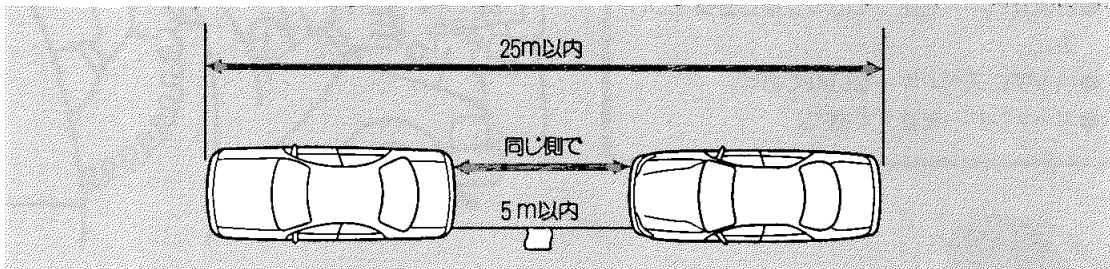
けん引してもらうときは

エンジンがまわっているのに車が動かなかったり、異常な音がする場合は、駆動系の故障が考えられますのでまずトヨタ販売店へご連絡ください。

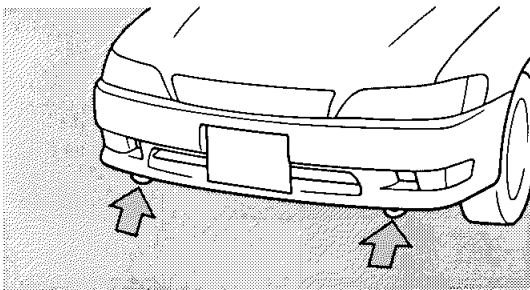
ロープによるけん引

① ボデーに傷をつけないようにしてロープをフックにかけます。

けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3 m × 0.3 m）以上の白い布を必ずつけてください。



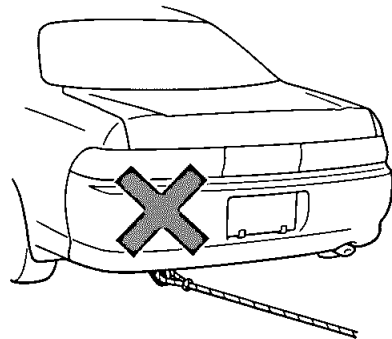
フックの位置



リヤ側フックについて

このフックは、車両輸送用です。けん引には絶対使用しないでください。

この車で他車をけん引することできません。



② チェンジレバーをNにします。

③ エンジンスイッチをACCまたはONにします。

④ けん引ロープをたるませないように前の車の制動灯に注意してください。

注意

- ボデーに傷をつけないようにロープに布などを巻いてください。
- けん引される速度は30 km/h以下、距離は80 km以内にしてください。
- 長坂路を下るときは、レッカー車にけん引してもらってください。ブレーキが加熱し効かなくなるおそれがあります。
- エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。またハンドル操作が重くなります。

キーを閉じ込んでしまったときは

△ 処置

- JAFを呼ぶ。
- キーナンバーをトヨタ販売店に知らせキーを作る。

キーの閉じ込みで困らないために

- 日頃からキーを使ってロックする習慣をつける。
- バッグにスペアキーをいれておく。
- キーナンバーを控えておく。



事故がおきたときは

あわてずに次の処置をしましょう。

1

続発事故防止

2

負傷者の救護

3

警察への届け出

4

相手方の確認とメモ
(氏名・住所・電話番号)

5

ご購入された販売店と
保険会社への連絡

